

地震・津波発生後の東海第二発電所の状況

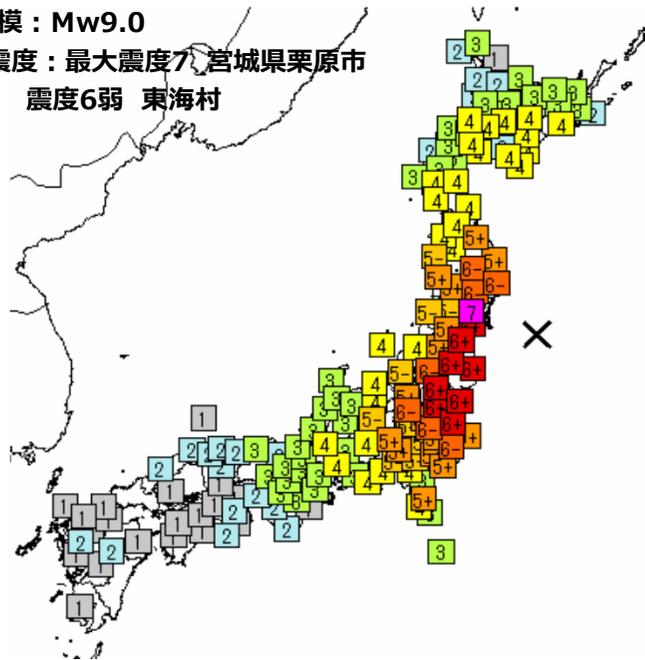
平成31年3月22日

日本原子力発電株式会社

- 平成23年3月11日14時46分の本震により「タービン振動大」により原子炉停止
- 地震の大きさは、震災前に設定していた基準地震動(機器の耐震設計に用いる値)よりも低い値
 - ✓ 安全上重要な機器(原子炉の停止や非常用冷却に使用する機器)に影響なし
 - ✓ 安全上重要な機器以外の機器では、影響あり

地震の概要

- ・発生日時：平成23年3月11日14時46分
- ・場 所：三陸沖（牡鹿半島の東南東、約130km付近）
- ・深 さ：約24km
- ・規 模：Mw9.0
- ・主な震度：最大震度7 宮城県栗原市
震度6弱 東海村



【原子炉建屋の最大加速度】 単位:ガル(加速度)

	地震観測記録			基準地震動※		
	南北	東西	鉛直	南北	東西	鉛直
6階	492	481	358	799	789	575
4階	301	361	259	658	672	528
2階	225	306	212	544	546	478
地下2階	214	225	189	393	400	456

※各階の基準地震動:

解放基盤表面[標高(E.L.)-370m]で設定された基準地震動S_s(600ガル)による、建屋の各階の最大応答加速度値。

地震の影響で故障した主な機器(安全上重要な機器以外)



- **安全上重要な機器を据え付けている原子炉建屋内では故障なし**
(再循環ポンプモーターはモーター上部の軸受の油切が擦れたもので機能には影響なし)
- 原子炉圧力容器内部を含めた停止後の安全上重要な機器の詳細点検においても異常はなかった。
- 機器に影響があったのは、安全上重要な機器のないタービン建屋や屋外のみであった。

